

舟運

復活プロジェクト



昔の人々は川と共に生活をしており、鶴見川においては「舟運」という文化があった。満潮時に新羽橋の近くまで遡行する水流を水運に利用したのである。道路が整備されてトラックなどの陸上輸送が盛んになる大正初期までは、水運は物資輸送の中心を占めており、旧太尾橋や大綱橋の近くにあった河岸を中心に商店街も形成された。中流域で生産された桃や素麺、氷やツトッコ（麦藁のビール梱包材）などが出荷された。樽村の小島孝次郎は、井戸から涌いた水を使って湯治場を作ったり、鶴見川を利用して、3日に1度舟にこの水を積んで鶴見方面の銭湯に運んでいた。流域の寺院の石材や資材も下流から運ばれたし、農地の生産力を上げるための肥料の下肥（人糞）も舟にて運ばれた。

この「舟運」という文化に焦点をあてて、鶴見川に川舟を復活させて流域の自然や伝統文化を子供達や地域住民に伝えるために「鶴見川舟運復活プロジェクト」を立ち上げました。当プロジェクトにご興味のある方は、ぜひご参加ください。

詳細はホームページをご覧ください。

(ホームページからもお申し込みいただけます。)

<http://shuun.mokusiroku.com>

会員お申し込み FAX: 045-542-3421

ふりがな			
お名前			
ご住所	〒	TEL	
		FAX	
		Eメール	
所属または肩書き(よろしければ記入をお願いいたします)			

※会員規則に従って、会費のご負担をお願いいたします。年会費：1,000円